

第6学年 国語科学習指導案

指導者 齊川 道夫

1 単元名 人物の生き方を考えよう 「海のいのち」(物語文)

2 目標

- 学習課題に興味をもち、進んで読もうとしている。 (関心・意欲・態度)
- 登場人物の生き方や考え方を言葉や行動の描写から読み取り、作品の主題に迫ることができる。 (読むこと)
- 比喩表現による描写のよさに気付き、味わうことができる。 (言語事項)

3 児童の実態と指導観 (男子＊人 女子＊人 計＊人)

(1) 児童の実態

調査項目		
1	「読むこと」問題の正答率 (ワークテスト)	* %
2	上記1のうち「物語文」問題の正答率 (ワークテスト)	* %
3	文脈に即して心情を読み取る問題の正答率 (県学力診断のためのテスト)	* %
4	国語の授業で話し合いながらする学習を好む児童 (児童アンケート)	*人 (*%)
5	国語の授業で挙手をして自分の考えを発表できる児童 (教師の観察)	*人 (*%)

(県学力診断テスト 4月実施 その他 9月調査)

各種調査からは、本学級の児童は読解力の基礎はあるのだが、人物の心情や表現を叙述と関係付けて読み取る力は不十分であることが分かる。一方で国語の授業において話し合いながら読みを深める学習は大変好んで行う。それは話合いで課題を解決する読解の学習を継続して行っているため、話合いで自分の読みがさらに深まるなどを実感しているからだと思われる。しかし、進んで挙手して自分の考えを発表できる児童の数はまだ**程度である。そこで話合いで積極的に参加し、自分の考えを根拠や理由を明らかにしながら発表できる児童を増やし、友だちの意見を聞き比べながら人物の心情や描写などの読み取りを深めていきたい。

(2) 教材観

本教材「海のいのち」は、結末において読み手の予想を覆す物語である。主人公太一が父の仇である瀬の主を結局はとらえることなく生かして終わるのである。初発の感想においても、「なぜクエを仕留めなかつたのか?」という疑問が多く児童からあげられている。この疑問を話合いで解決しながら、主人公太一が父やじいさ、海やクエといった自分以外の存在や関係により成長していく過程を読み取らせたい。そして、人間が成長するためには自分の努力に加えて周囲の人間や自然とのかかわりが重要であるという主題に気付かせたい。さらには本教材の読解を通して、自分自身の生き方を見つめ直していくべきと考えている。

(3) 指導観

以上のような児童の実態と教材の特質を踏まえ、本授業においては、話合いで物語の疑問を解決していくことを中心に学習を展開していく。本時においては「太一はなぜクエを仕留めなかつたのか?」という児童から出された疑問をもとに、「太一はクエを仕留めなくてよかったのか?」という学習課題を設定する。(文章中では「殺さなかつた」と表記されているが、話合いやノートに残酷な言葉が表出されることを避けるため、「仕留めなかつた」という表現に置き換える。)このように自分の考えによる立場を明確にする必要のある学習課題を設定することで、「仕留めなくてよかった。」「仕留めるべきだった。」のどちらが妥当なのか話合いで読解による解釈を深めることができる。そのためには、自分はどう考えるかをそれまでの読み取りをもとにノートにしっかりと書かせておく。その際、根拠となる文章中の言葉をあげながら、経験や想像をもとにした理由付けを明確にさせる。そして授業においては、十分な時間をとって話合いで行い、複数の意見を比較してよりよい考えをみんなで見つけていく。教師の解としては、「仕留めなくてよかった。」に絞り込みたい。本文中の「…太一は瀬の主を殺さないで済んだのだ。」という言葉がその主たる根拠である。「済んだ」というのは、あらかじめ期待や予想していた結果に対して用いる語句だからである。ここに太一の精神的な成長を読み取らせたい。そして、「では何のために海に潜ってクエと対面したのか?」という前時の課題において、「太一はクエを仕留めるために海に潜っていった。(はずである)」と解釈する児童が多いと予想できるので、「必ずしもそうではないかもしれない。」ということになれば、話合いや学びの必然性が増す。そして、それぞれの考えを多く発表させて、多様な視点から太一の行動、ひいては生き方を読み取らせていただきたい。

もし「太一は村一番の漁師であり続けた。」という語句を根拠に「結果的にそれでよかったのだから。」というようなやや安易な理由付けによる考えが出された場合は、「では、もし、クエを仕留めていたら村一番の漁師にはなれなかつたのか?」という仮定をして解釈を試みるように助言する。

なお、話合いで一人でも多くの児童が意見を言えるようにしたい。なぜならば、話合いでできるだけ多数の他者と自分の考えと比べることで、自分の解釈を修正し、読みが深まるからである。そのための方策として、黒板のネームマグネットを有効利用したいと考えている。具体的には、本時の授

業中、いつでも自分の意見を修正する（ネームマグネットを移動する）ことができるということである。このようにすれば、今だれがどんな考えでいるか分かるだけではなく、友だちのマグネットの動きを見ながら、「意見が変わらない友達」、「意見が変わった友達」に対する質問等を行うことで、挙手して発言するだけ児童だけでなく、より多くの児童の意見を聴き、比較して話合いを深めることができると期待する。クラスの実態として話合いを好んで行うということがあるので、このような方法により、話合いを楽しみながら読解の学習を行いたい。

4 学習計画（全6時間扱い 本時5/6）

次	学習活動	時	評価
1	<p>1 教材文を通読する。</p> <p>① 範読を聞きながら難語句に線を引く。</p> <p>② 初発の感想を書く。</p> <p>2 音読によりあらすじをつかみ、登場人物の関係をつかむ。</p> <p>① 音読練習をする。</p> <p>② 「読みナビ」によって、一人読みを行い、ノートにまとめる。</p>	2	<p>閲 全文を通読し、物語の大体をとらえ、初発の感想をまとめている。(観察・ノート)</p> <p>読 あらすじをとらえ、登場人物の関係をつかんでいる。(観察・ノート)</p>
2	<p>1 会話文から、それぞれの登場人物にとつての「海」の意味を考える。</p> <p>① 父にとっての「海」の意味をまとめる。</p> <p>② 祖父にとっての「海」の意味をまとめる。</p> <p>③ 太一にとっての「海」の意味をまとめる。</p>	1	<p>読 会話文に沿って、登場人物の考え方を自分の言葉でまとめている。</p> <p>(観察・ノート)</p>
3	<p>1 太一が「父の海」にもぐった理由を考えることができる。</p> <p>2 太一がクエを仕留めなかったのはなぜかを考えて発表したり、友達の考え方と比較しながら聞いたりする。</p> <p>①「太一はクエを仕留めなくてよかった」「仕留めるべきだった」のどちらと考えるか立場を決め、根拠と理由付けをする。</p> <p>②話し合いにより自分の考えを深める。</p>	2 本時	<p>読 太一が「父の海」にもぐった理由について自分なりに解釈している。</p> <p>(発表・ノート)</p> <p>読 太一がクエを仕留めなかったのはなぜかを考え、根拠を挙げ、理由付けしながら説明している。</p> <p>(発表・ノート)</p> <p>A: 文章中の言葉を用いて根拠を上げ、みなが納得できるような理由付けをしてクエを仕留めなかったことの意味を考え、発表している。</p> <p>B: 文章中の言葉を用いて根拠を上げ、理由付けをしてクエを仕留めなかったことの意味を考えている。</p>
4	<p>1 作者の他の作品を読み、テーマについて話し合う。</p> <p>①「山のいのち」「川のいのち」などについて、「海のいのち」と比べながら読む。</p> <p>②読み比べて気づいたことをノートにまとめる。</p>	1	<p>閲 作者の他の作品を読み、テーマについて自分の考えをもっている。</p> <p>(観察・ノート)</p>

5 本時の学習				
(1) 目標	太一がクエを仕留めなかったわけを考え、根拠や理由を挙げて説明することができる。			
(2) 資料	① ネームプレート			
(3) 展開	(○ 全体 ○ 個人 ☆ 評価)			
配時	学習内容及び活動	形態	資料	指導・援助の留意点及び評価
3	<p>1 本時の学習課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 太一はなぜクエを仕留めなかったのだろうか? </div> <ul style="list-style-type: none"> ・微音読しながら授業に入る。 	コの字		<ul style="list-style-type: none"> ○ 「読みナビ」によって、事前に読み取らせ、自分の考えをまとめさせておき、話合いの時間を多く確保できるようにする。 ○ 本文中では「殺す」という表現だが、語感の強さを鑑み、「仕留める」という語句に置き換える。
5	<p>2 自分の考えを明らかにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・補助発問「太一はクエを仕留めなくてよかつた？それとも仕留めるべきだった？」を提示する。 ・「仕留めなくてよかつた」、「仕留めるべきだった」のどちらと考えるか課題と補助発問を視写しながら決める。 ・黒板に自分の考えをネームプレートで明示する。 ・全体の考え方の分布傾向を確認する。 ・考えに変化が起きた場合は、いつでもネームプレートを張り替えてよいことを確認する。 	コの字	①	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の課題は「なぜ～か？」だが、話合いで検討しやすいように、補助発問『『仕留めなくてよかつた』』、『『仕留めるべきだった』』のどちらと考えるか』で提示する。 ○ 「仕留めなくてよかつた」だけに分布が偏ってしまった場合は、「もし、クエを仕留めていたら村一番の漁師にはなれなかつたのか？」という発問をして搔きぶりをかけてから、再度同じ補助発問を行う。それでも分布が一方に偏っている場合は、教師が「仕留めるべきだった」という立場を取り、話合いを行う。
22	<p>3 学習課題について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話合いのきっかけとして、肯定派と否定派の児童の代表に自分の考えと根拠を発表してもらう。 ・前時までの調べ学習や「読みナビ」による家庭学習をもとに、自分の考えを発表し合う。 <p>予想される児童の考え方と根拠 (仕留めなくてよかつた)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・結果的に一人前の漁師になれたから。 ・海のいのちとの意味に気付けたから。 ・父やじいさの考えが理解できたから。 ・おとうに会うことができたから。 ・本当は殺したくなかったから。 <p>(仕留めるべきだった)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・父の仇を討てたから。 ・父もじいさもできなかつたことだから。 ・仕留めてこそ本当の漁師と言えるから。 ・「夢」を実現させるまたとないチャンスだったから。 ・次の犠牲者を出さないため。 	コの字 グループ		<ul style="list-style-type: none"> ○ ネームプレートの動きをよく見ながら、「動かした友達」、「動かさない友達」の理由を聞いた児童を認める。 ○ 個人で考えることに行き詰まりが見られた場合は、タイミングをみてグループにするよう指示をする。 ○ 発表する際は、根拠となる本文中の言葉と推論の理由を述べるように言う。また、理由を言うときは、次のような言葉を使うとよいことを言う。 「もし～」「たとえば～」「自分なら～」 ○ 本文中の「殺さないで済んだ」に関連した意見が出たときは、「済んだ」とはどのような時に用いる語句か確認し、「太一は本当はクエを仕留めたくなかったのではないか？」と投げかける。 ○ 考えがつながるように、次のような助言を積極的に行う。 「○○さんはどうしてそう考えたのか」「自分の言葉で言ってみよう」「考えを変えた（変えない）○○さんの理由を聞いてごらん」 ○ 友達のネームプレートを動かすような意見が出た場合、賞賛する。 ○ 発表しない児童には発表を促し、自分の考えを言わせる。
10	<p>4 学習課題について自分の考えをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・根拠を挙げ、理由付けをしながら自分の考えをまとめて、ノートに書く。 	コの字		<p>☆ 太一がクエを仕留めなかった理由を考え、根拠を挙げて説明することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 根拠と理由を挙げて書くことができた児童には、板書してみんなに発表するようにさせる。 ○ 根拠と理由を挙げて書くことができない児童には、自分の考えを短く言わせ、その理由となる箇所を文章で探させ、ノートにまとめさせる。
5	<p>5 本時のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ネームプレートの動きを確認し、話合いによる読みの変容を振り返る。 	コの字		